

令和7年(2025年)7月24日(木)
(公財)広島平和文化センター
平和文化企画課長 大見
電話：242-8872 内線 5810

国際平和シンポジウム 2025「核兵器廃絶への道」の開催について

被爆80年を迎え、昨年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の被爆者や、核兵器禁止条約を進めてきた外交官、研究者、市民らとともに、核兵器をなくす道筋を考えます。

- 日時 令和7年8月2日(土) 13時00分～17時00分
- 会場 広島国際会議場(広島市中区中島町1-5) 地下2階「ヒマワリ」
- 主催 広島市、(公財)広島平和文化センター、朝日新聞社
- 後援 広島県、広島ホームテレビ、長崎市、(公財)長崎平和推進協会、長崎県、長崎文化放送
- テーマ 核兵器廃絶への道～戦後80年、未来へつむぐ～
- 主なプログラム・登壇者等(同時通訳・手話通訳あり)
【オープニング】13:00～
 - 開会挨拶 松井一實広島市長
 - ビデオメッセージ 鈴木史朗長崎市長
 - 被爆ピアノ演奏 萩原 麻未氏(2010年ジュネーブ国際コンクール優勝)
 - トーク 二口 とみゑ氏(HOPEプロジェクト代表理事)
[司会]桑島 美帆氏(中国新聞社報道センター文化担当記者)【第1部】13:30～
 - 基調講演 アレクサンダー・クメント氏(オーストリア外務省軍縮・軍備管理・不拡散局長)
 - ビデオメッセージ サーロー節子氏(被爆者)
 - パネル討論 和田 征子氏(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)
宮本 ゆき氏(米デュポール大教授)
倉光 静都香氏(米軍備管理協会リサーチアシスタント)
[司会]石合 力氏(朝日新聞編集委員)【第2部】15:00～
 - 特別トーク 森下 洋子氏(松山バレエ団理事長)
 - 事業紹介 広島ホームテレビ「絵おと芝居～ヒロシマの復興の力」
 - 記者報告 「朝日・中国・長崎新聞合同 被爆80年アンケート」
 - トークセッション 原田 小鈴氏(広島・長崎「二重被爆者」の山口疆氏の孫)
アリ・ビーザー氏(広島・長崎両方の米軍機搭乗員ジェイコブ・ビーザー氏の孫)
濱住 治郎氏(日本原水爆被害者団体協議会事務局長)
古賀 野々華氏(米ミシガン州立大学院進学予定)
[司会]田中 美穂氏(カクカワ広島共同代表)
[総合司会]渡辺 美佳氏(広島ホームテレビ アナウンサー)
- 参加について
入場無料。事前申込不要。

8 取材申込

会場内に報道席を用意します。7月29日(火)までに(公財)広島平和文化センター平和文化企画課までご連絡ください。

9 出演者による慰霊碑参拝

シンポジウムの開催に先立ち、出演者が慰霊碑参拝を行います。

(1) 日時：令和7年8月1日(金)16時00分～16時15分

(2) 内容：慰霊碑参拝・献花

(3) 参加者：

区分	所属・役職	氏名
1	オーストリア外務省軍備管理軍縮局長	アレクサンダー・クメント氏
2	日本被爆者団体協議会事務局次長	和田 征子氏
3	デュポール大学教授	宮本 ゆき氏
4	米軍備管理協会リサーチアシスタント	倉光 静都香氏
5	広島・長崎「二重被爆者」山口疆氏の孫	原田 小鈴氏
6	広島長崎米軍機搭乗員ジェイブ・ビーザー氏の孫	アリ・ビーザー氏
7	日本被爆者団体協議会事務局長	濱住 治郎氏
8	核をテーマとしたドキュメンタリー監督	古賀 野々華氏
9	被爆ピアノ演奏者	萩原 麻未氏
10	一般社団法人HOPEプロジェクト代表	二口 とみゑ氏
11	中国新聞報道センター文化担当記者	桑島 美帆氏

核兵器廃絶への道 ～戦後80年、未来へつむぐ～

広島・長崎に米国が原爆を投下して80年。
「キノコ雲」の上と下で何が起きたのか。
世代を超えて、未来へつむぐ物語があります。
昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の被爆者や、
核兵器禁止条約を進めてきた外交官、研究者、市民らと
ともに、核兵器をなくす道筋を考えます。

2025 **8/2** (土) 13:00～17:00

広島国際会議場 地下2階「ヒマワリ」
広島市中区中島町 1-5 平和記念公園内

13:00～ オープニング

松井 一實・広島市長あいさつ

鈴木 史朗・長崎市長ビデオメッセージ

被爆ピアノ演奏：萩原 麻未 (2010年ジュネーブ国際コンクール優勝)

トーク：「明子さんのピアノ」二口 とみゑ (HOPEプロジェクト代表理事)

司会：桑島 美帆 (中国新聞社報道センター文化担当記者)



13:30～ 第1部

基調講演：アレクサンダー・クメント (オーストリア外務省軍縮・軍備管理・不拡散局長)

ビデオメッセージ：サーロー 節子 (広島被爆者、2017年ノーベル平和賞授賞式で演説)

パネルディスカッション：「核兵器をなくすために」



和田 征子
長崎被爆者、2024年
ノーベル平和賞受賞
の日本被団協事務局
次長



宮本 ゆき
米デュポール大教授、
著書「なぜ原爆が悪
ではないのか」



倉光 静都香
米軍備管理協会リサー
チアシスタント、広島
女学院高、ミドルベ
リー大学院卒



司会：石合力 (朝日新聞社編集委員)

15:00～ 第2部

特別トーク：森下 洋子 (松山バレエ団理事長、2024年旭日重光章)

事業紹介：広島ホームテレビ「絵おと芝居～ヒロシマの復興の力」

記者報告：「朝日・中国・長崎新聞合同 被爆80年アンケート」

トークセッション：「キノコ雲の上と下から」



原田 小鈴
広島・長崎「二重被爆
者」の山口彊(つとむ)
氏の孫



濱住 治郎
広島胎内被爆者、
日本被団協事務局
長



古賀 野々華
米ミシガン州立大学
院進学予定、福岡県
の高校時代に米ハン
フォードに留学



司会：田中 美穂 (カクワカ広島共同代表、核兵器をなくす日本キャンペーン広島コーディネーター)

総合司会：渡辺 美佳 (広島ホームテレビアナウンサー)

先着 450人
入場無料

〈事前申込不要〉



入場無料
申込不要
FREE ENTRY
NO RSVP
NEEDED

Hiroshima

日本初公開!



JARA

RADIOACTIVE PATRIARCHY

Women of Qazaqstan

上映会 & トークセッション

Film Screening & Talk

2025 **8.2** Sat 9:30 開場
10:00 開演

📍 広島国際会議場「ヒマワリ」
広島市中区中島町1-5

広島市立基町高校 「原爆の絵」の紹介

被爆体験を語る証言者と広島市立基町高校（創造表現コース）の生徒が共同で「原爆の絵」を制作しています。記憶の場面を言葉で伝え、絵にしていく過程で、さまざまな葛藤や苦悩を二人三脚で乗り越えて一枚の絵に仕上げます。



『JARA (傷あと)：カザフスタンの女性たち』は、カザフスタンで約40年間にわたり行われたソ連の核実験がもたらした、環境破壊と人々の苦悩という過酷な遺産を描くドキュメンタリーです。本作の監督、エイゲリム・シチェノヴァ氏は、核実験による被曝三世として、2022年に自らの家族を抱える「核の遺産」と向き合う旅を始めました。彼女の自己探求の過程と、核実験の影響が及ぶ地域に暮らす6人の女性たちの証言を通して、映画は放射線被害における性差の問題に迫ります。男性優位の社会が軍事主義や男性性を称賛し、女性の経験が軽視される中、彼女たちは核被害の現実をどのように語るのでしょうか。上映後には、監督らによるトークセッションも予定されています。



エイゲリム
シチェノヴァ氏
Aigerim Seitenova
監督・プロデューサー

核と
いのち
を考える



主催：広島市、広島平和文化センター、朝日新聞社
後援：広島県、広島ホームテレビ、長崎市、長崎平和推進協会、長崎県、長崎文化放送